

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01612

研究課題名（和文）社会・自然環境と子どもの身体技術能力（生活技術を含む）の発達過程の相互作用

研究課題名（英文）The interaction of the socio-natural environment and children's process of developing physical skills (encompassing the living skills)

研究代表者

大澤 清二（OHSAWA, SEIJI）

大妻女子大学・人間生活文化研究所・特別研究員

研究者番号：50114046

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：人の身体発育発達過程の全貌を知るには狩猟採集時代の様相を知る必要がある。そこでタイの山地に生活する狩猟採集民のムラブリ（ピートンルアン）とアンダマン海サロン（モーケン）の調査を実施した。その結果、狩猟採集民には思春期の急進期が存在しないこと、成長が極めて緩やかであること、性差が非常に小さいことを実証した。本研究により19世紀以来の発育学の定説は人類全体に一般化できないことを証明し、波及効果の大きい成果を上げることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果が広く子どもに関する諸学に及ぼす影響は少なくない。従来の発育発達に関連する諸学とその応用領域（保育、児童教育、保健医療指導・治療、体育やスポーツ指導、発達心理分野など）は全てヨーロッパで構築された発育理論を基礎としてきた。しかしその基礎となる思春期理論が人類共通の一般理論として成立しないことが実証されたことで、それぞれの地域、民族、時代に応じた発育発達理論の必要性が本研究で示された。

研究成果の概要（英文）：In order to understand the entire process of human growth and development, it is necessary to understand the aspects of the hunter-gatherer era. Therefore, we conducted a study of the Mlabri (Phi tong luang), hunter-gatherers living in the mountainous areas of Thailand, and the Salon (Moken), living in the Andaman Sea. The results demonstrated that hunter-gatherers do not have a rapid adolescent growth phase, that their growth process is very gradual, and that gender differences are very small. The results proved that the established theories of auxological studies since the 19th century cannot be generalized to the entire human population, and the ripple effects of these findings were significant.

研究分野：発育発達学

キーワード：身体技術の発達過程 人類史 グロスモータースキル ファインモータースキル リビングスキル 発育発達 サロン（モーケン） ムラブリ（ピートンルアン）

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

人の身体発育発達過程は狩猟採集時代から現代に至るまでにどの様に変化してきたのかを知ることが研究の動機である。既存のヨーロッパや東アジアで蓄積された発育発達理論は依拠するデータ自体が先進地域や北半球の産業化された現代社会のデータに限られていたので、その時間的空間的限定性を越えて子どもの本来の発育発達過程の諸相を知ることは難しく、想像するに留まってきた。そこで本研究ではその限界を越えて、身体発育発達の原初的な諸相を人類史的視座から実証的に解明することを目指した。研究が順調に遂行できれば、得られる研究成果は関連する諸学(児童に関する諸科学)に対して、これまで未知であった「文明によって修飾されていない段階での人の根源的な発育発達」に関する基本的な知識を提供するはずである。

### 2. 研究の目的

幼児期から青年期までの人の身体発育発達の過程に関する理論・評価基準は欧米や東アジアを中心として19世紀末～現代に形成された。従ってそれ以前の時代に生きた人や、周辺地域・民族に関する知識は欠落したままであり、それ故に狩猟採集社会やそれ以降の未開発な社会、産業化されていない社会の人々の発達過程は全く未知で多くの課題が残されたままであった。本研究では現在でも原始的なライフスタイルを残す東南アジアの諸民族(主として最も人類史上で古いライフスタイルを行っている狩猟採集民)を対象として、その発育発達過程を明らかにすることである。

### 3. 研究の方法

人類史における社会発展段階を大まかにモデル化した Goldschmidt は、最も原初的なライフスタイルを行う段階として移動的狩猟採集社会をおいた。その後に来る社会として定着的狩猟採集社会、園芸的村落社会または部族社会、農業的国家社会、産業的卓越社会を措定し、その頂点に現代社会を位置づけた。本研究ではこのモデルにおける最古の狩猟採集社会に関する子どもの発育発達研究が全く欠落している点



Fig.2. タイ山地のムラブリ(ピートトルアン)

Fig.1. アンダマン海を漂海するサロン(モーケン)

に注目し、現時点でこの段階にある社会に生育する子どもたちを対象とした調査を企画した。調査対象はアンダマン海を漂海する狩猟採集民サロン(モーケン)(Fig. 1)と、25年前から狩猟採集・移動生活から定住に移行したタイ山地のムラブリ(ピートトルアン)(Fig. 2)である。彼らの発育発達を知るとは、人類史的には移動から定住化直後の貴重な段階の子どもたちの発育発達を推測する有力な手掛かりとなる。そこで、彼らの身体発育発達とその生育環境に関する調査を行った。

### 4. 研究成果

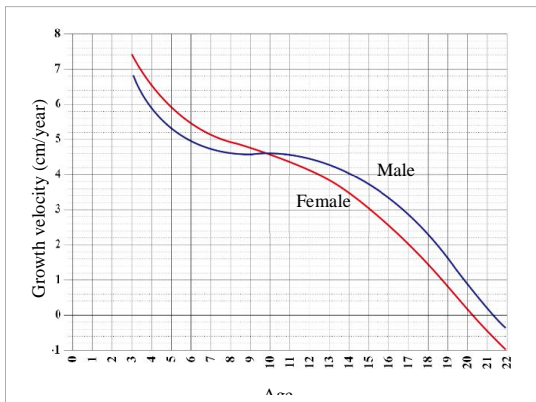
本研究では身体発育発達を人類史的視野から探求するにあたって、Goldschmidt の「Man's Way」モデルを仮説とし、現代に生きる東南アジア諸民族をこのモデルにおける各社会発展段階に対応させて研究対象とし、彼らの発育発達とその生育環境を明らかにしようとした。そこで、人類はその生存時間の99%以上を狩猟採集生活によっており、まず狩猟採集民の研究を最優先で行い、しかる後にその後の社会発展段階にある人々を研究することとした。

初年度はこれまでの研究成果を総括して、各社会発展段階における人の身体の使用状況、労働時間、道具の使用、自由時間、ファインモータースキル、グロスモータースキル、視聴覚能力、衣服製作能力、調理能力、身体装飾性、肥満度等その水準を定性的に評価しその解釈と考察を行った(人類史から見た「身体の使い方」、子どもと発育発達、2021、Vol.19(No.2))。またこれらの情報を人類史的変遷の観点から視覚化した展示資料を作製して大妻女子大学博物館において半年間にわたる特別展を開催し、その展示図録の出版を行った。また、狩猟採集民であるサロンの発育データを解析したところ、ムラブリにおいて認められたものと類似した結果がえられた。これによって、狩猟採集時代の子どもの発育は現代人よりはるかに緩やかであり、狩猟採集民には現代人のような激しい発育発達をする思春期は存在しなかった、という新学説を提出した。

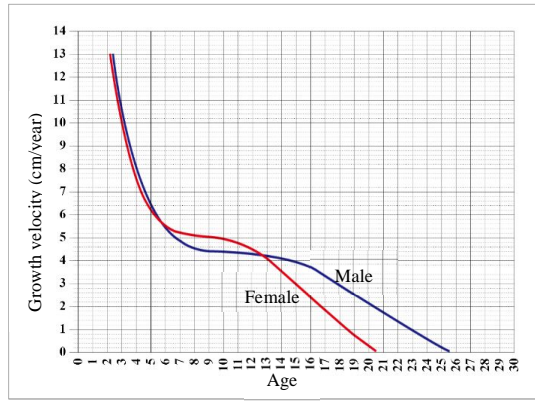
しかし本課題の研究期間は初年度を除いて、ほぼ全面的に新型コロナウイルスのパンデミックのために大幅に研究計画を変更せざるを得なかった。そのために、調査地とはオンラインによる研究ミーティングを頻回に行い、現地調査はタイでのみ令和4年末に実施した。タイではナーン県の狩猟採集民ムラブリの調査に重点をおき、現地研究協力者たちの協力のもとに、これまで調査地としてきたファイユアック・キャンプに加えて、同県プーファー地区のムラブリ・キャンプにおい

て、ファインモータースキルとグロスモータースキル、身体活動を伴った遊びに関する発達調査を行い、未知であった狩猟採集民の行動特性についての新知見を得た（日本発育発達学会第 21 回大会報告、2023 年 3 月）。一方、ミャンマーでは共同研究機関、研究協力者と頻りにオンライン上で協議を行った。特に現地調査員が提供したデータから、南部タングダーリ地方の遊動狩猟採集民サロン（モーケン）の発育発達のユニークな特徴を明らかにした。サロンには欧米人や日本人などに見られる思春期発育の急激な発育増加期が存在しないこと、女子が男子を凌駕して発育する期間が非常に長く、定説の 2 年間に大幅に上回って 10 年以上に及ぶこと、発育期間が非常に長く男子で 24 歳、女子で 20 歳までは発育が続くことなどを発見した。これはタイの狩猟採集民ムラブリにおいても類似していることから、狩猟採集民に共通に見られる発育現象の特徴であることを初めて報告し、定説を覆した。このサロンとムラブリの mixed-longitudinal data が示すように、狩猟採集民には思春期の急進期が存在しないことは、19 世紀以来の人の発育に関する一般理論は人類全体に一般化できず、ごく一部の時代の一部の社会でのみの説明原理ではないことが明らかになった。（Is the “adolescent growth spurt in body height” an established theory of growth in the 20th century, a universal phenomenon among humans? : Through observations of hunter-gatherers Moken (Salon) and Mlabri (Phi ton luang), *Int. J. Hum. Cult. Stud.*, 2022, No.32）

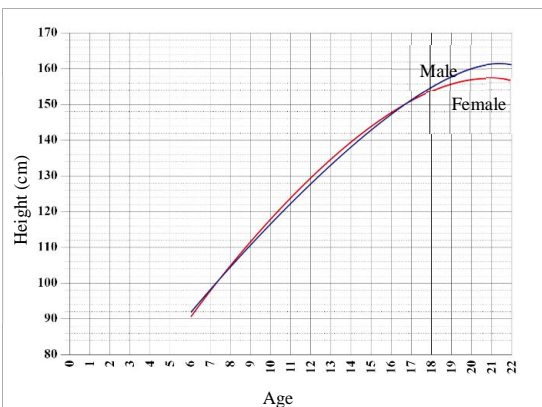
また現在までサロン研究の大きな障害になっていたミエ諸島の島名が国際的にも不統一で混乱していたので収集した資料情報を元に 287 島名を整理して島嶼情報を一覧できるようにした。（Sorting Out the Changes and Confusion of Myeik Islands Names in Myanmar, *Int. J. Hum. Cult. Stud.*, 2023, No.33）



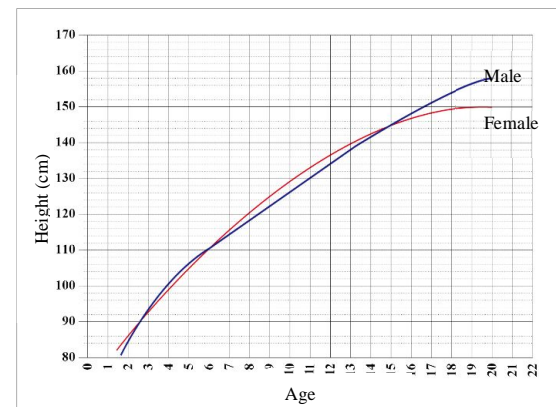
**Fig.3.** Growth velocity curve in height of Moken  
- PHV is not seen in both genders -  
(Ohsawa S, Shimoda A, Than Naing. On the Salone (Moken) people in whom adolescent growth spurt of height have not been seen. *Jpn J Hum Growth Dev Res.* 2021; **90**, 1-10. )



**Fig. 4.** Growth velocity curve in height of Mlabri  
(Ohsawa S, Shimoda A, Sriskhontamit S, Pradit N. On the Mlabri people in whom adolescent growth spurt of height have not been seen. *Jpn J Hum Growth Dev Res.* 2018; **80**, 30-38. )



**Fig. 5.** Comparison of the growth of Moken in height between male and female  
(Ohsawa S, Shimoda A, Than Naing. On the Salone (Moken) people in whom adolescent growth spurt of height have not been seen. *Jpn J Hum Growth Dev Res.* 2021; **90**, 1-10. )



**Fig. 6.** Comparison of the growth of Mlabri in height between male and female  
(Ohsawa S, Shimoda A, Sriskhontamit S, Pradit N. On the Mlabri people in whom adolescent growth spurt of height have not been seen. *Jpn J Hum Growth Dev Res.* 2018; **80**, 30-38. )

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計52件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Seiji Ohsawa, Than Naing, Tin Hone, San U, Atsuko Shimoda	4. 巻 33
2. 論文標題 Sorting Out the Changes and Confusion of Myeik Islands Names in Myanmar	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Human Culture Studies	6. 最初と最後の頁 22-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seiji Ohsawa, Than Naing, Sataban Sriskhontamit, Narit Pradit, Atsuko Shimoda	4. 巻 32
2. 論文標題 Is the "adolescent growth spurt in body height," an established theory of growth in the 20th century, a universal phenomenon among humans? : Through observations of hunter-gatherers Moken (Salon) and Mlabri (Phii ton Luang)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Human Culture Studies	6. 最初と最後の頁 31-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二、下田敦子、タンナイン	4. 巻 90
2. 論文標題 身長と思春期スパートが見られないサロン（モーケン）人について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 発育発達研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 19(1)
2. 論文標題 狩猟採集民の研究から子どもの遊びの原型を求めて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どもと発育発達	6. 最初と最後の頁 74-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤 清二、家田 重晴、西嶋 尚彦、佐川 哲也、國土 将平、下田 敦子	4. 巻 86
2. 論文標題 20世紀末タイにおける社会環境の激変が子どもの形態発育に与えた影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発育発達研究	6. 最初と最後の頁 52-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5332/hatsuhatsu.2020.86_52	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 発育発達学の統計的基礎～正規分布について～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子どもと発育発達	6. 最初と最後の頁 61-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 18(2)
2. 論文標題 相関・回帰論と発育学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子どもと発育発達	6. 最初と最後の頁 137-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 867
2. 論文標題 発達曲線に内在する身体文化の深い意味	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 868
2. 論文標題 世界の発育データと現代発育理論のはざま	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 869
2. 論文標題 発育評価の基礎知識	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 78-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 870
2. 論文標題 発育測定の間隔をどうするか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 854
2. 論文標題 発達課題としてのファインモータースキルの適性と進路選択	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 855
2. 論文標題 「身体の使い方」の歴史について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 856
2. 論文標題 ファインモータースキルの時代の身体の使い方	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 857
2. 論文標題 機械の時代における身体の使い方	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 858
2. 論文標題 近未来の身体の使い方はどうなるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 847
2. 論文標題 遊びの原点：性差と模倣と無競争	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 849
2. 論文標題 指の進化とファインモータースキル（FMS）の発達	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 850
2. 論文標題 手指の使用が脳の発達を支配する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 54-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 851
2. 論文標題 生活技術と身体技術（ファインモータースキル）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 大澤清二	4. 巻 852
2. 論文標題 人類史から見た「身体の使い方」 - 狩猟採集民の身体発達 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 853
2. 論文標題 人類史のなかの身体の使い方の変化 - さまよう生活から定住する生活へ -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 833
2. 論文標題 発育に対応した校具 ~ 身体計測の意義とこれからの課題 ~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 834
2. 論文標題 身長・人体計測の意義とマルチン式計測, 学校保健統計について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 835
2. 論文標題 発育発達学からみて6歳就学は適切か？(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 836
2. 論文標題 発育発達学からみて6歳就学は適切か？(2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 837
2. 論文標題 発育発達学からみて6歳就学は適切か？(3)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 54-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 838
2. 論文標題 発育発達学からみて6歳就学は適切か？(4)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 839
2. 論文標題 忘れがちな「教育の目的」としての発達	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 840
2. 論文標題 狼は人間を育てられるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 842
2. 論文標題 子どもが遊ば(遊べ)なくなった本当の理由	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 45-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 844
2. 論文標題 子どもの遊びのはじまり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 54-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 845
2. 論文標題 鬼ごっこは人類史のいつからあるのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 846
2. 論文標題 森の狩猟採集民の子どもの「木登り」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 828
2. 論文標題 子どもの筋力づくりは何歳から開始したらよいか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 827
2. 論文標題 子どもの体力 (全身持久性) づくりに最適なのは何歳からか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 826
2. 論文標題 就学前の発育促進が日本人の大型化の原因だった	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 54-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 825
2. 論文標題 日本人が大きくなったのは思春期の早期化が原因なのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 824
2. 論文標題 思春期発育スパートはすべての人間で必ず発現するわけではない - 狩猟採集民の発育パターン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 823
2. 論文標題 発育標準値による評価の難しさを国際的視野から理解しよう	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 822
2. 論文標題 思春期の発育スパートは何回起きるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 821
2. 論文標題 学校現場で使える肥満・やせの判定法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 大澤清二
2. 発表標題 日本発育発達学会の20年と発育発達研究のこれから
3. 学会等名 日本発育発達学会第20回大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大澤清二
2. 発表標題 人類史から見た身体機能の将来 - 本質的な身体機能 (Primary Motor Skills) 退行の時代を迎えて -
3. 学会等名 日本発育発達学会第19回大会シンポジウム『進化するヒト』 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Usha Acharya, Jun Nakanishi, Atsuko Shimoda, Seiji Ohsawa
2. 発表標題 An Assessment of BMI among Vegetarian and Non vegetarian Children of Nepales
3. 学会等名 日本発育発達学会第19回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中西純、Usha Acharya、下田敦子、大澤清二
2. 発表標題 中位カースト（ネパール）の子どもの発育
3. 学会等名 日本発育発達学会第18回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Usha Acharya, Jun Nakanisi, Atsuko Shimoda, Seiji Ohsawa,
2. 発表標題 An assessment of grip strength among vegetarian and non-vegetarian Nepalese children
3. 学会等名 日本発育発達学会第18回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大澤清二
2. 発表標題 発育発達学からの応答
3. 学会等名 早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター一般公開シンポジウム「森の民ムラブリのいまむかし」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大澤清二、下田敦子、吉村桃実（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大妻女子大学人間生活文化研究所	5. 総ページ数 40
3. 書名 【図録】東南アジア狩猟採集民の生活と子どもの発育発達	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	下田 敦子 (SHIMODA ATSUKO)  (60322434)	大妻女子大学・人間生活文化研究所・准教授  (32604)	
研究分担者	中川 正宣 (NAKAGAWA MASANORI)  (40155685)	大妻女子大学・人間生活文化研究所・特別研究員  (32604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ミャンマー	国境省民族発展大学		